



平成 24 年 5 月 7 日

各 位

上 場 会 社 名 株 式 会 社 イ ン タ ー ト レ ー ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 尾 崎 孝 博  
(コード番号：3747 東証マザーズ)  
(URL：http://www.itrade.co.jp)  
本 社 所 在 地 東 京 都 中 央 区 新 川 一 丁 目 17 番 21 号  
問 合 せ 先 経 営 企 画 部 長 山 野 潤  
電 話 番 号 0 3 - 4 5 4 0 - 3 0 0 2

## 平成 24 年 9 月期第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想の修正に関するお知らせ

平成 23 年 11 月 11 日に「平成 23 年 9 月期決算短信」で公表いたしました平成 24 年 9 月期（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想（以下「期初計画」）を下記のとおり修正しますので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 平成 24 年 9 月期第 2 四半期累計期間の業績予想（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

##### （1）業績予想の修正

| （連結）                               | 売上高          | 営業利益        | 経常利益        | 当期純利益       | 1 株当たり<br>当期純利益  |
|------------------------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|------------------|
| 前回発表予想（A）                          | 百万円<br>1,680 | 百万円<br>△125 | 百万円<br>△130 | 百万円<br>△132 | 円 銭<br>△1,837.24 |
| 今回修正予想（B）                          | 1,459        | △133        | △129        | △8          | △114.91          |
| 増減額（B-A）                           | △221         | △8          | 1           | 124         |                  |
| 増減率（%）                             | △13.2        | —           | —           | —           |                  |
| 〈ご参考〉前期実績<br>（平成 23 年 9 月期第 2 四半期） | 1,847        | 145         | 151         | 233         | 3,352.89         |

| （個別）                               | 売上高          | 営業利益        | 経常利益        | 当期純利益       | 1 株当たり<br>当期純利益  |
|------------------------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|------------------|
| 前回発表予想（A）                          | 百万円<br>1,600 | 百万円<br>△115 | 百万円<br>△120 | 百万円<br>△122 | 円 銭<br>△1,698.05 |
| 今回修正予想（B）                          | 1,458        | △84         | △88         | 33          | 465.86           |
| 増減額（B-A）                           | △142         | 31          | 32          | 155         |                  |
| 増減率（%）                             | △8.9         | —           | —           | —           |                  |
| 〈ご参考〉前期実績<br>（平成 23 年 9 月期第 2 四半期） | 1,841        | 147         | 137         | 219         | 3,157.53         |

## (2) 修正の理由

### ① 連結業績

証券業界、投資顧問業界を取り巻く環境は厳しく、売上高が期初計画を下回る見込みとなりました。コスト削減を進めたものの、営業利益、経常利益についても期初計画を下回る見込みです。一方で、解約違約金等を特別利益として計上した結果、当期純利益は経常利益を上回り、期初計画に対しても上方修正となる見込みです。

各セグメントの概況は以下のとおりです。

#### <証券ソリューション事業>

当社顧客の証券会社のディーリング業務撤退により、『**TIGER TradingSystem**』『ITMonster』の解約があったものの、前年度からの受注活動の成果で新たに新規顧客との取引を開始し、主力製品での顧客数は維持しました。しかしながら検収のタイミングが期初計画よりも遅れ、当第 2 四半期累計期間で計上した保守料等の安定収益が期初計画を下回りました。

また、受注活動が長引き、当第 2 四半期累計期間で受注に至らなかった期初予定案件が複数ありました。

#### <投資顧問事業>

既存顧客である証券業界の投資意欲の減退の影響で、付加価値情報提供サービスの解約がありました。加えて、投資顧問業界全体を揺るがすコンプライアンス関連の不祥事が起こり、機関投資家等への営業活動に大きな逆風となり、期初見込んでいた投資助言サービスによる売上を計上できませんでした。

#### <自己資金運用事業>

当第 2 四半期累計期間においては、上場企業や投資顧問会社のコンプライアンス関連の不祥事が大きく取り上げられ、当社グループが開発した売買ロジックが想定しない株価の変動があり、予想していた運用益を上げることができませんでした。

以上の要因から、前述の業績予想修正となりました。

### ② 個別業績

売上高は期初計画を下回る見込みであるものの、利益は期初計画を上回る見込みです。

売上面については、①連結業績< 証券ソリューション事業> での記載のとおりです。

費用面においては、厳しい状況の売上予想を受け、業務効率化による工数削減を徹底し、人件費及び外注費の削減を進めました。結果として、当第 2 四半期累計期間においては期初計画以上の利益を確保する見込みとなりました。

## 2. 平成 24 年 9 月期通期の業績予想（平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

### （1）業績予想の修正

| （連結）                          | 売上高          | 営業利益       | 経常利益       | 当期純利益      | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|-------------------------------|--------------|------------|------------|------------|-----------------|
| 前回発表予想（A）                     | 百万円<br>3,480 | 百万円<br>150 | 百万円<br>150 | 百万円<br>140 | 円 銭<br>1,948.59 |
| 今回修正予想（B）                     | 2,980        | △130       | △120       | 5          | 69.59           |
| 増減額（B-A）                      | △500         | △280       | △270       | △135       |                 |
| 増減率（％）                        | △14.4        | －          | －          | △96.4      |                 |
| 〈ご参考〉前期実績<br>（平成 23 年 9 月期通期） | 3,335        | 47         | 66         | 172        | 2,472.38        |

| （個別）                          | 売上高          | 営業利益       | 経常利益       | 当期純利益     | 1 株当たり<br>当期純利益 |
|-------------------------------|--------------|------------|------------|-----------|-----------------|
| 前回発表予想（A）                     | 百万円<br>3,300 | 百万円<br>110 | 百万円<br>105 | 百万円<br>95 | 円 銭<br>1,322.25 |
| 今回修正予想（B）                     | 2,910        | △70        | △75        | 50        | 695.92          |
| 増減額（B-A）                      | △390         | △180       | △180       | △45       |                 |
| 増減率（％）                        | △11.8        | －          | －          | △47.4     |                 |
| 〈ご参考〉前期実績<br>（平成 23 年 9 月期通期） | 3,324        | 52         | 39         | 142       | 2,042.50        |

### （2）修正の理由

#### ① 連結業績

当第 2 四半期累計期間の実績と、直近の受注活動の進捗状況を精査した結果、通期の売上高についても期初計画を大きく下回る見込みとなりました。引き続きコスト削減を進めるものの売上高の未達をカバーするに至らず、売上高、利益ともに期初計画から下方への修正となりました。

各セグメントの概況は以下のとおりです。

#### ＜証券ソリューション事業＞

主力顧客である証券業界の厳しい事業環境の影響で、受注活動が遅れております。受注済みの新規顧客案件、『**TIGER TradingSystem**』の海外市場への接続案件等についても大規模な案件は少なく、期初計画を下回る見込みとなりました。

当第 3 四半期会計期間以降は、現在予定している案件の受注及び検収を確実にこなす一方、ディーリングシステム部門の人員を、外国為替証拠金取引システム部門及び新規事業部門に異動し、更なる一人当たりの生産性向上と当社グループ全体の成長力向上を進めます。

#### ＜投資顧問事業＞

引き続き、投資顧問会社に対する投資家の視線は厳しく、期初予定していた運用助言契約を獲得することは難しい状況です。企業コンサルティング等の新分野での受注が一部で進捗していますが、売上、利益ともに期初計画を大きく下回る見込みです。

#### ＜自己資金運用事業＞

当第 3 四半期会計期間以降は、期初計画通りの運用益を目指しますが、運用する資金量を増やす予定は無く、当第 2 四半期累計期間のマイナス分がそのまま通期のマイナス分となる見込みです。

#### ＜新規事業＞

平成 24 年 6 月にサービス提供を開始する予定の「IT ソリューション事業」をはじめ、複数の事業において受注活動及び生産体制の構築を行っております。売上高及び利益は期初計画と比較して下回る予定であるものの、当連結会計期間においてある程度の売上実績をあげ、当社グループ最大の経営課題である「顧客層の多様化」につなげます。

### ② 個別業績

①連結業績＜証券ソリューション事業＞ 記載のとおり理由により、売上高、利益ともに期初計画を下回る予定です。

## 3. 今後の方針

### （1）顧客層の多様化の促進

当社グループの主力である証券ソリューション事業においては、金融商品の売買に関連するシステムを販売しております。証券会社等金融業界のグローバル化は継続して進展しており、売買主体は国内証券会社のみならず外資系証券会社ならびにヘッジファンド等の存在感が増しております。また、売買対象も株式のみならず、為替証拠金取引等の株式以外の金融商品が広く認知されてまいりました。

当社は期初より「顧客層の多様化」を主要施策として打ち出し、当第 2 四半期累計期間においては大手米系ヘッジファンド、関西商品取引所との取引を開始し、外国為替証拠金システムも取引社数を増やしています。当第 3 四半期会計期間以降も、成長力がある新規顧客の獲得を目指してまいります。

また、平成 24 年 4 月 19 日に公表したとおり、事業会社全般向けのサービスとして「IT ソリューション事業」を開始しました。こちらについても速やかに事業展開を行い、中期的な収益の柱に育てる方針です。

投資顧問事業については、外部環境の影響で新規顧客の獲得が一定期間難しい状況ですが、機関投資家等は引き続き有効な資金運用を求めています。当社グループが開発した売買ロジックの収益実績を自己資金運用事業で積みながら、魅力的な商品開発に努め、グループ全体のリソースを活用して、投資顧問事業を来期以降の収益源の一つにすることを目指します。

### （2）営業体制及び生産体制の確立

証券業界は事業主体の選別が進展し、また当社証券ソリューション事業においてはある程度の業務ノウハウ確立が進みました。証券ソリューション事業においては外部環境、内部環境ともに更に効率化が進むと予想されます。一方で、現在当社グループは IT ソリューション事業等の新規サービスを今後展開する予定であり、これら新規サービスは広い潜在顧客を有します。

営業体制及び生産体制の確立は主要な経営課題であり、今後ともグループ全体の成長戦略を見据えた人材採用及び内部での配置転換を行い、中期的成長を実現するための人的リソースの質及び量を確保いたします。

(注) 業績予想数値について

上記に記載した内容は、本リリースを公表した時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上